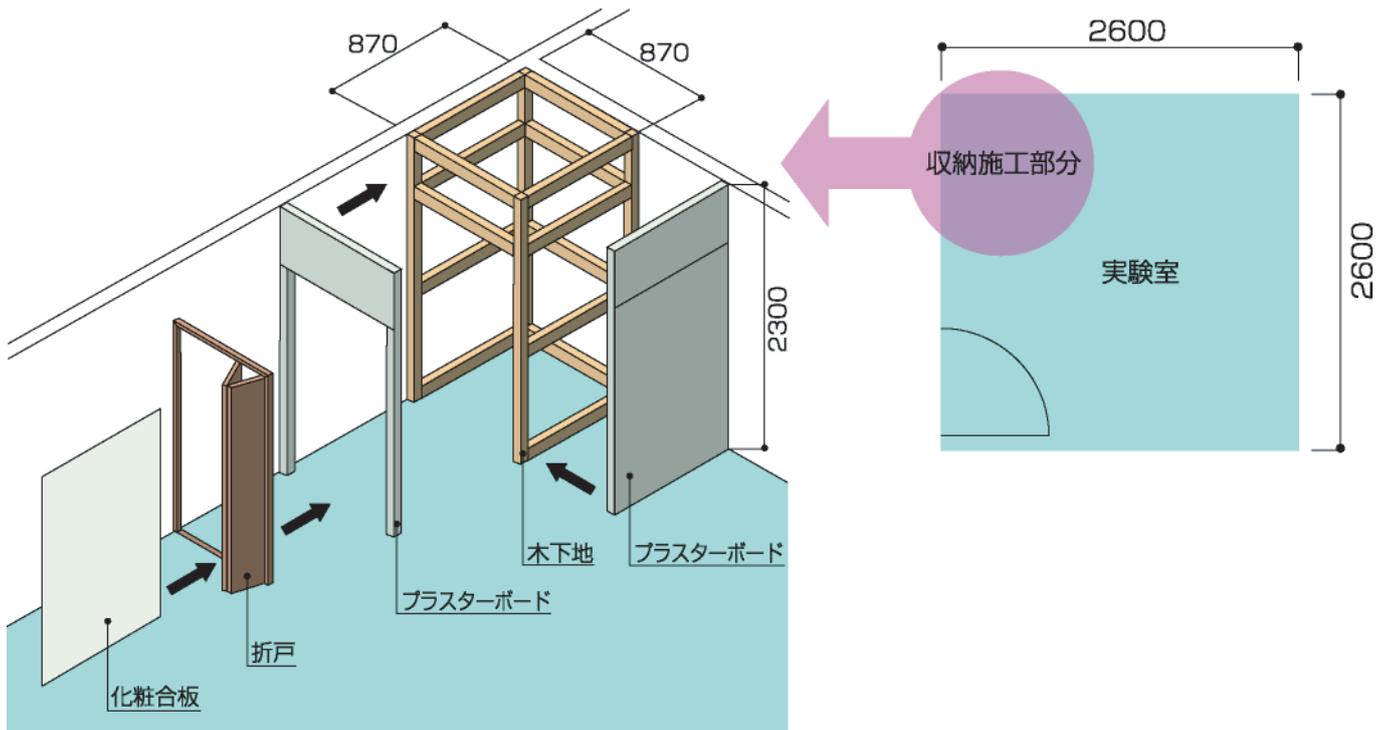


# 住宅用モデル実験室における 室内化学汚染濃度の検討

梅田 和彦・荒川 琢也・深尾 仁・森川 泰成

## Study on Concentration of Chemical Contamination in Model Laboratory

Kazuhiko Umeda, Takuya Arakawa, Hitoshi Fukao and Yasushige Morikawa



収納による室内空気化学汚染への影響を実験室にて検討

### 研究の目的

地球環境保護を目的としたエネルギー削減で、住宅の高気密・高断熱化が進む一方で、適切な換気が施されていない場合は、高齢者や年少者をはじめ、空気化学汚染に対して敏感な人体が受ける影響が、甚大になる可能性が高くなります。本研究は、住宅の居室における室内化学汚染の状況を把握し、内装材や換気などの化学汚染低減技術の効果を確認することを目的としています。本報では、当社のシックハウス対策実験室において、収納による室内空気化学汚染を把握した実験の結果について報告します。

### 技術の説明

当社のシックハウス対策実験室では、材料選定、施工方法、換気などの室内空気化学汚染の低減技術の効果を確認することができます。研究成果は、実物件適用や、設計・施工マニュアルへ展開しています。

### 主な結論

収納による室内濃度への影響を実験で検討した結果、化学汚染対策を施した折戸は、一般的な仕様の折戸より、室内の総揮発性有機化合物濃度を最大約半分まで削減する効果があることを確認できました。